

NCC HEADLINE

〔日本キリスト教協議会 最新情報〕

103年目の追悼祈祷会 私たちは忘れない

来る8月30日（日）、「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者103年キリスト者追悼祈祷会」が開催されます（会場：富坂キリスト教センター+オンライン）。これは、3年前の2023年9月3日に開催された「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者100年キリスト者追悼集会」（実行委員会主催）を引き継ぐものです。

100年の追悼集会の際、私たちは、6000人以上の朝鮮人と700人以上の中国人が無残に殺された大虐殺の背後には、行政によって広められた朝鮮人への侮蔑的な風潮があったこと、そして警察は虐殺を止めようとしなかったばかりか加担したことを学びました。さらに、教会は朝鮮人・中国人を守ろうとしなかった罪を告白しなければならぬことを深く心に刻みました。

翌24年、この追悼集会を100年の年だけで終わらせるのではなく、毎年覚えて祈りを献げたいと願い、NCC東アジアの和解と平和委員会が呼びかけて、多くの教会や団体の賛同を得、101年目の追悼祈祷会を開催しました。以来、毎年実施し、今年は103年目の祈祷会となります。

今もなお、日本政府は「政府としては虐殺の事実を確認できない」という姿勢を変えていません。東京都知事も、関東大震災における朝鮮人・中国人への虐殺の事実に向き、関東大震災朝鮮人

犠牲者追悼式典に送付してきた「追悼の辞」を2017年以降取りやめたままです。

それどころか、政府は「国家情報会議設置法案」を3月13日に閣議決定、5月27日に参院で可決・成立させ、いわゆる「スパイ防止法」を制定させようとしています。監視監督を強めようとする国の動きを知る時に、関東大震災の時に、「不逞鮮人」をあぶりだすために「十五円五十銭」と言わせ、朝鮮人・中国人を捕らえて惨殺した事実があったことを決して忘れてはならないと思わされます。

改正入管法も加わって排外主義が急速に強まり、国旗損壊罪法案等のナショナリズムがいよいよ牙をむく中ですが、私たちは関東大震災における大虐殺からの問いに、これからもより一層向き合い続けなければならないと思います。「地の塩・世の光」として召されているキリスト者の使命にたって、社会で起きていることに敏感でありたいと願います。

今年は、関東大震災下で虐殺された中国人労働者を追悼する会共同代表の林伯耀さんが「王希天惨殺事件をめぐる」と題してお話しして下さいます（詳細はNCCのホームページをご覧ください）。ぜひご参加ください。（飯塚拓也 いいづか・たくや＝日本基督教団／東アジアの和解と平和委員会委員長）



【主催・共催集会】

*詳細はNCC ホームページのニュースをご覧ください。Facebook でも案内しています。

■第48回ウクライナを覚えて平和を祈るキリスト者祈祷会 8月24日（月）後8時～8時45分、オンライン。日本カトリックのち・平和・人権委員会、平和を実現するキリスト者ネット、NCCの共催。

■関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者103年キリスト者追悼祈祷会 8月30日（日）後3時～5時、富坂キリスト教センター（東京都文京区）とオンライン。NCC 東アジアの和解と平和委員会が呼びかけ。

■「子どもと聖書とエキュメニカル運動」検証プロジェクト主催・第8回公開講座 9月5日（土）後2時～3時半、日本キリスト教会館（東京都新宿区）+オンライン4階会議室。NCC 教育部が事務局。

【委員会など】

■8月22日（土）財政検討チーム 第3回会議

■8月25日（火）部落差別問題委員会

■9月7日（月）靖国神社問題委員会

■9月9日（水）女性委員会



ACTアピール

災害時に教会の力を結集する仕組み

ACTアライアンスの活動で一番良く知られているのは、なんといっても災害対応でしょう。実際に、世界のどこかで地震や洪水、干ばつ、紛争などによる大きな人道危機が起きた時、ACTはどのように動くのでしょうか？ ACTアライアンスには、被災地での支援を調整し、必要な資金を集める「ACTアピール」という仕組みがあります。このアピールは、現地での救援活動を全世界につなげる役割を果たします。

その第一歩は、被災国のACTフォーラム、つまり現地の加盟団体による協議です。各団体は、被害の状況を把握し、自分たちが持つ人的資源や経験、支援できる地域や分野を確認します。そして、緊急支援が必要

だと判断した

場合、「ACTアラート」をジュネーブの本部事務局に提出します。地震や洪水のように突然起きた災害では、原則として発生から24時間以内の提出を目指します。

アラートには、災害の種類と規模、被災地域、被災者数、食料・水・住居・医療などの不足、行政や国連、他の支援団体が活動しているかどうかなどを記します。また、現地の教会や地域団体が何をできるか、どのような支援を計画しているのかも示します。災害直後には、すべての情報がそろっているとは限りませんが、その場合は、何が現時点で分かっているのかを記します。支援の開始を遅らせないことが大切なのです。

ACTアラートが提出されると、緊急運営委員会が48時間以内に会議を開きます。被害の大きさ、緊急性、状況の複雑さ、現地の対応能力などを検討し、アピールを開始するかどうかを決定します。比較的小規模な

災害には、より迅速な「緊急対応基金」が使われる場合もあります。

開始が承認されると、現地の加盟団体は7日以内に、最初の支援計画と予算を提出します。この計画は、最初の3カ月間に何を行うかを中心にまとめます。被災者の声と必要を丁寧に把握し、行政や他団体と調整して、支援の重複や取り残される人が生じないようにします。計画はACT事務局の確認を経て全世界に「ACTアピールとして」公表され、世界の加盟教会や団体に献金と協力が呼びかけられます。

ACTアピールは、単なる募金活動ではありません。現地の教会と地域社会を中心に、世界の教会が祈り、資金、専門性を持ち寄り、被災した人々の命と尊厳を守るための共同の働きです。まさに、教会の交わりを「行動する希望」へと変える仕組みなのです。
(藤守義光 ふじもり・よしみつ=日本キリスト教会／ACTジャパンフォーラム事務局)



ACT ジャパンフォーラム ホームページ <https://ncc-j.org/actjapanforum/> Email actjapanforum@ncc-j.org

三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店 普通 2255233

対話の可能性を信じて ISJPプログラム25周年

21世紀も四半世紀を迎えました。この25年を振り返ると、世界の宗教は二つの異なる方向へ歩みを進めているように思われます。

一つは、宗教と政治との結びつきが、これまで以上に強まっていることです。欧米ではキリスト教を背景とする政治運動が存在感を増し、各地でナショナリズムと宗教が結びつく現象が見られるようになりました。その動きはキリスト教だけに限らず、仏教をはじめとする他の宗教にも及んでいます。

こうした潮流は、インターネットという新しい公共空間によってさらに加速しています。SNSや動画配信では、宗教的なメッセージと政治的な主張が重なり合い、それぞれの価値観を共有する人々の間で繰り返し語られます。その結果、異なる立場との対話よりも、同じ考えを

確認し合うことが優先される場面も少なくありません。

一方で、宗教を他者との対話を通して自己を問い直す営みとして受けとめようとする考えもあります。違いを越えて出会い、耳を傾け、共に考える。その積み重ねの中に、宗教が本来持っている力を見いだそうとする試みです。NCC宗教研究所が25年間続けてきたISJP (Interreligious Studies in Japan Program) は、そのような対話の可能性を大切にしてきました。

このプログラムでは、毎年9月末から12月末までの10週間、ヨーロッパや神学・宗教学を学ぶ学生たちが来日し、日本の宗教文化を学びます。仏教史や仏典講読、民俗宗教と神道、新宗教、日本のキリスト教、「対話の神学」といった授業に加え、各地でのフィールドワークを通して、宗教が人々の生活の中でどのように息づいているのかを体験的に学ぶのです。

その際、何よりも大切にしているのは、「経験としての

対話」です。対話とは、自分の立場を主張することではありません。異なる伝統に耳を傾け、その背景にある歴史や文化、人々の思いに触れることです。そして、その出会いは相手を理解するだけでなく、自らの信仰や価値観を新たな視点から見つめ直す機会にもなります。

宗教は、文化や民族、国家の違いを超えて、人間が共に生きるための知恵を育んできました。その知恵は特定の宗教だけに属するものではありません。互いの違いを認めながら共に生きる姿勢の中に、宗教が社会に果たし得る役割があるのではないのでしょうか。

ISJPは25年間、異なる文化と宗教に出会い、対話を重ねながら学びを深める場を育んできました。分断や対立が深まる今だからこそ、そのような出会いと対話の意義は、これまで以上に大きくなっていると私たちは信じています。

(エスベン・ペーターセン=NCC宗教研究所副所長)



NCC 宗教研究所 ホームページ <https://nccisjpnew.wixsite.com/nccisjp> Facebook NCC Center for the Study of Japanese Religions (Kyoto)
T/F 075-366-2421 Email studycen@mbox.kyoto-inet.or.jp 郵便振替 01060-6-2555